



AROUND THE WORLD
28

北ゲルマン語を巡って [2]

森 信嘉 Mori Nobuyoshi (東海大学)

フィヨルドと
ノルウェー語



フィヨルドー 新世界への旅立ち?

「フィヨルド (fjord)」は古ノルド語から英語に入った語である。ノルウェーは無数のフィヨルド、山、溪谷、森林等、雄大な自然美で名を馳せている。国全体が風光明媚な国立公園であるかのようだ。しかし、このような地形のために各地にちらばる集落どうしが分断され、集落間の移動は容易ではなかった。その結果、ノルウェーでは各地域の方言が保持され、多様で豊かな方言に満ちた言語社会が形成されることになった。北ゲルマン語の中でもノルウェー語の方言の多様さは群を抜いている。主要な方言として、北ノルウェー語方言、トロンネラグ方言、西ノルウェー語方言、東ノルウェー語方言の4種類、あるいはこれに中部ノルウェー方言を加えた5種類に分類されるのが一般的であるが、これらの主要方言にはさらに下位区分される数多くの方言が存在する。

ノルウェーは14世紀末からデンマークの支配下にあったため、書き言葉としてデンマーク語が用いられていた。1814年のデンマークからの独立を契機として、ノルウェー独自の書き言葉を確立しようとする動きが見られるようになる。その結果、デンマーク語の書き言葉にノルウェーの話し言葉の要素を加えて成立した「ブックモール (bokmål)」とノルウェー諸方言や古ノルド語を基盤として作られた人工語である「ニューノシュク (nynorsk)」の二種類がノルウェーにおける書き言葉として併用されるようになった。

集落を隔離し方言の多様性に寄与したフィヨルドであるが、かつてはフィヨルドこそが船による集落間の移動を可能にし、集落どうしを結びつけていたとも考えられる。fjordの語源はドイツ語のfahren「行く」、英語のfare「運賃」、firth「湾」、ford「浅瀬」、port「港」などの語と関連があり、すべて何らかの意味で「移動」に関連する語である。これらの語には原始印欧語 *per「対岸に渡す」が含まれており、我が国でもおなじみの「般若波羅密多心経 (略称「般若心経」)の「波羅密多」(サンスクリット語: pāramita)の部分に「彼岸」を意味するparaという語の変化形が見られる。

腹の底から声を出すようにして経を読むと立派な呼吸法になるとのことで、居酒屋のカウンターに座り、一杯傾けながら「般若心経」梵語バージョンを暗記したことがある。訳の分からない文字が並んだ紙片を片手にぶつぶつ言っている親爺が敬遠されるのもわからなくはない。お陰様で、周りの席は静寂に満ちたフィヨルドの佇まいのようにひっそりと空席になることが多かった。

表紙写真
について

ジャカランダー初夏の訪れー

田嶋美砂子 (元星美学園中学校・高等学校, シドニー在住)



シドニーの10月はジャカランダの季節だ。この花木はオーストラリア固有の種ではないが、街の至るところで目にすることができ、花が咲き始めると、「シドニーに初夏がやって来た」としみじみ感じ入る。それは4月に日本で桜を見て、春を実感する感覚と非常によく似ている。

ジャカランダの楽しみ方はさまざま。木の真下から見上げれば、からっとした青空によく映える薄紫色の房を間近で愛でることができるし、公園の木立を遠目に見れば、周囲の新緑とのコントラストを堪能す

ることができる。散った花びらさえ、美しい。シドニーで育った友人の一人は幼少の頃、ジャカランダの落花をバスケット一杯に集めて遊んだという。しかし、花にはwaspと呼ばれるスズメバチが集まるそうなので、「手に取るときは気をつけるように」との助言も受けた。

ところで、ジャカランダはシドニーだけのものではない。ブリズベンやパースにも存在する。特に、シドニーから北に約660キロメートル離れたグラフトンが有名で、この街では毎年10月中旬から11月初旬に

かけて、ジャカランダ祭りが開かれる。専用ウェブサイトによると、約2週間の開催期間中には、山車の行進や舞踏会、ジョギング大会や各種チャリティー・イベントと、実に多くの催し物が企画されるという。

1934年に始まり、オーストラリアでは歴史ある民間祭事の1つとされるグラフトンのジャカランダ祭り。今年は80回目を迎える。シドニーからは列車で10時間以上かかるが、この記念すべき年に訪れ、地元の人々が誇る並木通りを歩いてみたいという誘惑にかられている。